

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 11 月 27 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104369		
法人名	社会福祉法人 広島光明学園		
事業所名	グループホーム光明牛田		
所在地	広島市東区牛田新町3丁目20-15 (電話) 082-211-3040		
自己評価作成日	平成29年9月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470104369-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470104369-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年11月9日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>①保育園が事業所の階下にある為、入居者様と園児のふれあう機会があり、交流行事等により、一緒にレクリエーション等を行う事で、笑顔が多く引き出せるよう力を入れている。 ②外部の行事に参加し、地域との関りが少しでも持てるよう積極的に参加させて頂いている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>この1年間の特徴的な取組みとして、第一に、「一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保」の深化がある。即ち、事業所は「業務優先とならないように常日頃から注意しながら」利用者のペースに合わせたケアの提供を行っている。管理者主導の下、利用者のやる気・自尊心を大切に声掛けにも留意している。例えば、立ち上がった利用者「どうされましたか」といった間接的な行動制限ではなく、その意を忖度して、「私達も行くので、一緒に」といった、利用者の行動に寄り添う支援を行っている。第二に、「災害対策」の深化がある。即ち、運営推進会議の参加者から防災時に垂直移動の重要性の指摘があり、避難訓練に採り入れた経緯がある。当初は水平移動で避難訓練をしていたが、今回は独歩可能な利用者階上・階下に避難してもらった結果、下りるのを怖がる利用者がある状況がわかり、今後の課題を共有できた点がある。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人全体の理念「三宝一如」とグループホームの理念そのものが地域密着を目指している。理念をもとに、地域の行事への参加を通じ、実践につなげている。	事業所理念は開設時に法人により作成され、朝の申送り時に唱和して意識統一を図り、期末の事業報告で総括している。その理念の達成の為に分かり易い月間目標を職員会議で策定し、月末に振り返り、翌月に繋げている。又、職員個人の業務目標管理も導入され、年間目標を設定し、半期毎の個人面談により、ケアの向上に繋げるべく、日々の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内の行事に参加させて頂いたり、散歩や買い物等に参加して頂く事で地域の方々とのふれあいを持っている。個別で馴染みのスーパーへの買い物の支援や、行きつけの飲食店への外出支援等、地域との関係性が途切れないようにしている。	事業所は、町内会の回覧板や運営推進会議での情報交換もあり、ほおずき祭や盆踊り等に利用者も参加し、地域行事を通じて地域に溶け込む努力をしている。法人により月1回の認知症カフェを開催したり、併設の保育園と合同開催する「夕涼み会」には、百名余りの地域住民の参加があり、相互交流・世代間交流も為されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事、法人行事へ参加し、地域の方々との交流を通じ、認知症のご利用者様と触れ合ってもらい、認知症への認識を深めて頂いている。又、認知症サポーター養成講座に参加し、地域の方へ認知症について話す機会を設ける事もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族、民生委員、地域包括支援センターの職員を招き、意見交換を行い、サービスの向上に努めている。例えば災害発生時の対応について質問があった場合には、ご家族をお招きし、実際に見て頂いたり、感染症の流行時期に合わせ、ホームでの対応について聞かれた時等も、医院医師をお招きし、ホームの対応と、医師とのアドバイスを合わせながら、実践に生かす事もある。	会議には家族、地域住民代表として地域包括支援センター職員、民生委員、時に消防署職員、地域医療従事者等が参加し、併設事業所と合同開催されている。会議では事業所の現況・行事報告等が、一定の意見交換・情報交換と共に行われ、例えば、参加者から防災時に垂直移動の重要性の指摘があり、避難訓練に採り入れた経緯がある。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の報告を、開催後に介護保険課へ送付している。又、入所者が他サービスを利用するにあたり、事業所で不明瞭な点等について、問い合わせる等、行っている。	運営推進会議には、ほぼ毎回地域包括支援センターの職員が参加し、情報の共有化が図られている。又、地域包括支援センター主催の「認知症サポーター養成講座」に事業所職員が講師として協力する他、行政主催の成年後見制度研修や河川事務所主催の防災研修に参加したり、避難訓練等で消防署との連携強化にも取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関への施錠は行っていない。身体拘束については、年1回は必ず、施設内研修を開催し、研修で得た情報を職員で共有している。日常的に、職員一人一人に、言動や行動について、注意を促し、発生しないよう細かく注意を払っている。新入職員へは必ず管理者から、身体拘束についてのオリエンテーションを行っている。</p>	<p>法人全体で「身体拘束排除マニュアル」を策定し、内部研修を通して職員は「身体拘束はしない」必要性を認識し、具体的なケアの中で実践を重ねている。例えば、日中は玄関を施錠せず、センサーで見守りを行ったり、又、管理者は「言葉による行動制限」等「不適切な」ケアへの気づきを促せる様に、職員に声掛けを行っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>施設内研修を開催し、研修で得た情報を職員全体で共有している。職員一人一人の発言にも注意を払い、防止に努めている。新入職員には、入職時、管理者が虐待について、オリエンテーションを行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>実際に利用されている方がいるため、担当者ややりとりをしながら、職員一人一人必要性を学ぶ機会が持っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に重要事項を説明させて頂き、理解と納得を図っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見・要望を受け付けているが、書面での受け取りは難しい為、来所された際に気づきや要望を等伺い、介護サービス計画書や運営面に反映させている。</p>	<p>利用者の要望等は日頃の職員との会話から把握し、家族とは年1回の家族会や介護計画更新時や面会時等に職員や管理者が積極的に聴くように努めており、申送りノートに記載して職員間で共有したり、介護計画の「個別内容チェック表」欄に反映させている。活動性を上げるため歩行練習の導入や食事形態の変更等の要望の例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	担当者会議や職員会議にて、職員一人一人に意見を聞く機会を設けている。発言が少ない職員の意見を聞くための事前アンケートの実施や、個別面談の機会を設け、職員から意見を引き出せるようにしている。	毎月の職員会議や半期毎・随時の面談や毎日の申し送りで意見を聞く機会を設け、会議録や申し送りノート等で共有したり、事前アンケートを実施し、職員からの意見を掘り起こしている。会議では、ヒヤリハット・事故の境界線の見直しや外出機会を増やすため、毎週土曜日に食材の買い出し等が検討され、実施に至った経緯がある。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望休暇をシフトに反映させる。時間外労働ができる限りないように業務の分担や声掛けを行い、超過勤務時には時間外手当の支給と、時間調整を図り、負担の軽減を図っている。法人オリジナルのチャレンジシートで年2回目標設定を個々にしてもらい、個別面談にて、前期・後期と、目標と実績に沿った評価を実施し、やりがいに繋がるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個別に目標を設定し、面談をする事で、現在の個々のレベルを自覚してもらいながら、今後の取組みを一緒に考え、職員が成長できるようサポートしている。施設内研修や施設外研修等への参加を促し、現場でのOJTだけではなく、外部からの知識等も取り入れられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	施設外研修への参加を促している。又法人内での、委員会に各職員を配置し、事業所だけの人間関係だけではないネットワーク作りを行っている。又施設内研修でも、グループワークを中心として実施している為、他事業所との意見交換や、ディスカッションを実施しており、少しでも個々のレベルがアップできるように取り組んでいる。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用前に面談し、現状における心境への配慮、要望等の確認、アセスメント、担当者会議を通じ、安心してサービスの利用をして頂けるよう、又良好な関係が築けるように、取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>サービス利用前の面談時や契約時にご家族様の置かれている立場や心境に耳を傾け、サービス利用開始されてからも、面会等にお越しになられた際に、お話を聞かせて頂く等し、関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>しっかりとした話し合いのもと、求められているサービス（例えば訪問歯科の利用や、訪問マッサージの利用等）必要なサービスの調整、通いなれた病院への通院等希望に随時対応していけるように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ご本人ご家族と担当者会議等にて、しっかり話し合いをしながら、ご本人様のできる事を見極め自立支援を行っている。又職員の苦手な分野（例えば料理や洗濯物の畳み方、園芸等）を教えて頂いたり、何事も一緒に取り組みをする事を心掛けている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会等の際には随時声掛けを行い、ご本人がよりよい生活を送って頂く為に気づきや要望を聞かせて頂きたい旨を伝え、意見をサービスに反映させている。又、通院等ご家族に協力を頂ける事についても話をしながら、難しい時にはホームで対応する等、双方が協力をしながら本人を支えていけるように努めている</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>地域行事に参加して頂きながら、馴染みの関係が保てるように努めている。又日常的に、昔からの行きつけのスーパーや病院、食事処への外出の支援にて、知人や友人等大切な「人」「場所」との関係が薄くならないように努めている。</p>	<p>「気軽に訪問できる事業所作り」「地域との絆」を大事にし、利用者との会話や生活歴を参考に家族の協力で、買い物に行ったり、地元の医療機関に受診したり、地域行事に参加した際も、知り合いがおり、外出や外泊を通して、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々ご利用者様同士の良好な関係が続くよう、又、新規入所者の方には、職員が会話等の架け橋となり、関係の構築に努め、集団レク等により、楽しいひと時の提供の中で更に関係性が良くなるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了しても相談が入れば対応している。例えば、退所された後に電話連絡させてもらい、写真の提供や、状態の確認、要望や相談があった場合には随時対応している。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	担当者会議や事業所の会議にて、本人、ご家族の意向を踏まえながら、生活がより良い物となるように努めている。困難な場合においても、職員間で話し合い、できる限りの最善のサービスが提供できるように努めている。	利用者毎に担当を決め、職員は利用者の気持ちを大事にしながら、ゆっくり話す時間を作り、その方の行動を理解するよう努めている。必要があれば、担当者会議等でそれ等の情報を検討し、プランに繋げている。利用開始当初、趣味が不明で色々な個別的レクを試すも乗り気なかったが、偶々行ったカラオケが趣味だった例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス利用前に事前調査し、ご家族やご本人からアセスメントにとる情報の把握に努めている。サービス利用開始後にも、日常生活の中から、情報収集を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者様との日々のコミュニケーションや、観察により、本人のできる事出来ない事、リズム等を見極め、職員間で情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	職員で話し合った事を、再度ご家族に報告、検討してもらい、必要に応じて医療機関等の関係者と連携しながら現状に即した介護計画書の作成に努めている。	アセスメント・原案作成は医療情報を含め管理者が行い、家族や利用者毎の担当職員等関係者で担当者会議を開き、本案を策定する。モニタリングは職員が日々「個別内容チェック表」で確認し、管理者が毎月集約する。計画の見直しは基本的に半年毎に行っている。食事処で働いていた経験を活かし、家事の手伝いを立案した例がある。	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	個別記録だけでなく、担当者会議、事業所会議、ヒヤリハット報告書、事故報告書等をもとに、サービスの内容の見直しを行っている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	気持ちが落ち着かない時には、ご家族様と連携し、自宅へお連れしたり、知人の方と連携し知人宅へお連れしたり、行きつけの食事処にご案内する等の取り組みを行っている。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	保育園との交流や、地域行事への参加、日常生活での散歩や買い物等、外出の支援を心掛け、外での生活の充実を図っている。個別レクや集団レク等の提供もを行い、日常生活が楽しくなるよう支援している。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	通いなれた病院への受診を基本としている。随時希望される医療機関への通院の支援を行い、ご家族が通院をされる場合においても、管理者が足を運び、担当医との面識を作る取り組みをしている。	利用前の主治医の受診継続も可能だが、過半数の利用者は事業所の協力医を主治医としている。協力医からは定期的な往診と共に随時の受診も可能であり、適切な医療が受けられる体制となっている。受診の際は、殆ど事業所が家族に代わり通院介助を行い、受診情報はケース記録や送りノートで情報共有をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>提携している医院へ日々症状報告書を送り、情報の共有に努めている。又、訪問看護ステーションの看護師が来所した際には申し送りを行い、何かあった時には、電話連絡し、相談・助言を受けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中定期的に面会に伺い、主治医や医療連携室、薬剤師や看護師へ状況の確認を行いながら、退院に向けて備えを行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約の際に、重要事項の説明として、伝え同意を得ている。又、面会に来られた際には、現状を伝え、ご家族へ、事業所として提供できる限界について等説明しながら、ご理解頂けるように取り組んでいる。又、入院時に継続した医療が必要となる場合には、主治医や入院先の医師に相談し、連携を図りながら、チームでの支援に取り組んでいる</p>	<p>利用開始時、入所契約書の「医療的な対応に関する指針」にて事業所としての基本的な方針を説明し、了解を得ている。重度化した際には、関係者で話し合いを行い、「介護施設として受け入れが可能」な範囲で適切な支援を行う考えである。基本的には、「入院」等により十分な医療支援体制に取り組むことを、その方針としている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>特に夜間帯の急変に備え、新入職員への緊急時の対応について、管理者が説明しながら利用者の急変を演じ、訓練を実施している。又発生時の対応を実際に傍で一緒に行う事も多い。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>月1回の避難訓練を実施し、災害発生時に備えて訓練を行っている。夜間帯を想定し、屋外への避難誘導を実際に実施しながら、避難誘導が身に付くよう訓練している。又、地域の消防訓練へも参加し、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>夜間想定避難訓練は、併設のグループホーム・通所介護事業所と合同で、また日中想定は保育園を加えた4事業所合同で毎月実施している。年に一度、運営推進会議の日に消防署の立ち合いの下、実施し、利用者の搬送手段も踏まえた実践的な訓練となっている。更に地域の消防訓練にも参加し、相互協力体制作りに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	些細な事に注意が払えるよう日頃から職員全員で注意しあいながら、プライバシーや尊厳を損ねない対応に気を付けている。	特に入浴時や排泄時等の対応では誇りやプライバシーに配慮している。排泄時に見守りの必要な利用者でも職員は一旦トイレの外で待機したり、居室は利用者の自宅との認識の下、扉は必ず閉める様にしている。声の大きさにも留意する様に管理者は指導し、申送りノートや面談も活用しつつ意識的に問い掛けをして注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	行動する前には、必ず、ご本人の意向確認を行うよう取り組んでいる。答える事が難しい方も質問の仕方に選択肢を設ける投げかけを行い、自己決定に繋がるよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先とならないように常日頃から注意しながらご本人にペースに合わせて支援をさせて頂いている。そのような事が発生した場合はまず口頭で注意を促し、傾向が強くなってくるとであれば会議にて検討課題として取り入れる事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	更衣時・入浴時には必ずご自身に服を選んで頂いている。又、ご自身で身だしなみをを整える事が出来ない方は、お部屋から出てこられる際には、服や頭髮の乱れを職員が整えるよう取り組んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	協力して頂ける時には準備から片付けまでご利用様と一緒にしている。食事前の体操、口腔体操の実施。音楽をかけながらリラックスして頂けるよう環境を整えている。嫌いな物がある日には、個別メニューを作るようにしており、リクエストをお聞きし、メニューに取り入れる事もある。	朝食と日曜食は職員が作り、昼・夕食は1階の厨房で作られ、事業所で刻み食等に食事形態を変えたり、盛り付け、配膳をしている。食事の中で嗜好も把握でき、利用者は調理の下ごしらえ等役割に応じた手伝いをしている。菜園の野菜が食卓に上ったり、園児と団子を作り、屋上で月見を楽しんだり、地域行事での外食も好評である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分量を確認しながら、少ない方へのアプローチは目標に掲げる等し、こまめに取って頂けるよう、好みの飲み物を取り入れながら提供している。食事についても、個別に形態を調整し、好みに合わせて提供する時もある。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアの実施を全て、ご利用者様に実施して頂いている。訪問歯科医の医師と連携し、個別的に指導を仰ぐこともあり、口腔内の衛生が保てるように取り組んでいる。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>基本的に、全ご利用者様トイレ誘導を実施しトイレにて排泄して頂けるよう誘導している。個別に排尿パターンを把握し、訴えがあった場合には随時誘導を行っている。</p>	<p>出来るだけトイレで排泄してもらう様に、排泄記録表等により、各人の排泄パターンを把握し、誘導している。職員はプライバシーに配慮したケアを行い、又トイレには可動式の手すりも設置されている。更にオムツから紙パンツに改善された例や便失禁への対応を工夫してトランクスに改善した例等、自立に向けた支援も行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食物繊維、乳酸菌の摂取や適度な運動を心掛け、排便がなかなかない場合にはお風呂やトイレにて、腹部マッサージさせて頂く等し、自力排泄が促せるよう取り組んでいる。又訪問マッサージの施術者に助言頂く事もあり、施術時にマッサージをしてもらう事も多い。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴の希望を確認し、その方の希望に沿えるように声掛け促しをさせて頂いている。順番に関しても、一番風呂を好まれる方、最後を好まれる方等それぞれの希望に沿って一人一人の支援を行っている。入浴剤を好まれる方等への対応も行っている。</p>	<p>入浴は週2～3回、10時から16時の時間帯を基本に行っているが、利用者の体調や入浴習慣に合わせ、好みの入浴温度や時間に配慮する等、柔軟に対応している。足浴・シャワー浴も対応可能である。又、入浴剤を使用して寛いでもらったり、月に2回程度、スーパー銭湯を利用したり、入浴を楽しんでもらえる様に工夫をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>日中の活動後の休息への配慮を個々に行っている。日中傾眠が強い方は、声掛けやレクの実施により活動を無理なく促し夜間の良質な睡眠に繋がるよう取り組んでいる。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬マニュアルに沿って提供を行っている。日々の状態に配慮し、内服薬の見直し等、体調に変化があった場合には医師に相談し、調整をして頂いたりする事もある。変更があった場合には必ず、職員間で申し送りをし、情報の共有に努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>会話が好きな方にはしっかりお話をしながら、他者と繋がりができるよう取り組みを行っている。カラオケが好きな方にはカラオケを提供し、手作業が得意な方にはそちらを提供する等1日の中で、生活が楽しくなるよう支援を行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>月の目標に掲げ、計画を立てながら外出の支援を行っている。例えばお墓参りや、本屋への買い物。和食料理屋への外食等、個々の希望を確認しつつ、家族と連携を取りながら外出が出来るよう取り組んでいる。</p>	<p>日頃から利用者の希望により近所への散歩や日用品・食材の買い物に出かけている。又、初詣・お花見・折り鶴奉納・菊花展等の外出行事や公民館祭り・ほうづき祭り等の地域行事等、普段は行けないような所へ外出し、「非日常」を楽しむこともある。外出のついでに利用者希望により本屋に立ち寄る等の「寄り道外出」も好評である。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>金銭に関しては基本家族が管理されている。中には社協の福祉サービス利用援助事業「かけはし」を利用され、自身で管理をされている方もおり、外出の希望があった際に使用されている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望時にはホームの電話にてご家族と連絡を取り合う方もいらっしゃる。手紙についても、書かれた際には、職員と一緒にポストへ投函しに行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節の花や、ご利用者様と一緒に季節の飾りを作り、一緒に飾る等行っている。トイレ内には自動消臭機を設置し不快感への配慮や、光が強い時には居室やホールのカーテンを閉める、心地よい風が入る時には窓を開放する等、環境面への配慮も行っている。</p>	<p>3階にある事業所は大きな掃き出し窓からの採光を得て、明るい空間となっている。洗濯物も干してあるベランダは生活感もあり、プランターで栽培したトマト・キュウリ・ゴーヤ等が食卓に上ることもある。七夕の短冊や紅葉の折り紙等の飾り付けがフロアに季節感を醸し出し、エアコンの風が直接当たらない様に遮蔽板の工夫もある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食事時以外は自由に席に座って頂き、ご利用者様の自由に使って頂いている。居場所作りとしては、ソファが好きな方や一人がけのテーブルが好きな方等出来る限り個々に合わせ対応させて頂いている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>基本的に入所の際には、ご家族様にご本人が使い慣れた物を持って来て頂けるようにしている。職員が自宅に伺い、実際の間取りと同じように家具を設置する等行う事もある。又、プレゼントや本人が作られた作品等を飾り、自由にさせて頂いている。</p>	<p>居室にはベッド・エアコンを設置し、ベッドは利用者が使いやすい機種や配置に工夫したり、利用者宅の居室の写真を参考に家具を配置することもある。居室には利用者が家で生活していた物をそのまま持ってきてもらい、テレビ等使い慣れた物や昔利用者が作った羽子板等、好みの物に囲まれ、居心地よく過ごせる様にしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ご自身の所有物に制限はかけず、持ち込んで頂いている。日常生活においても、極力手は出さず、見守る事から状況を見極め、それぞれに合った支援を心掛けている。（例えばごみ箱の設置場所を認識されておられる方は自身で捨てて頂く。テレビが好きな方には、リモコンを傍に置き自由にチャンネルを変えて頂く等）</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム光明牛田

作成日 平成29年12月2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議への家族参加が少ない。	運営推進会議への家族参加を増やすとともに、深い内容の実施及び、家族の理解を深める。	日程調整。ご家族様への声掛け。不参加家族への具体的内容の報告。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。